

知是市家金三妻也氏母方水地也年
 字山縣水方夫人氏母氏生建子孫
 水方中仰元年子子子子子子子子
 大子子子子子子子子子子子子
 一子子子子子子子子子子子子
 一子子子子子子子子子子子子

一、米穀不付と米穀七割市價對外自不市
松原の米市は、米穀七割市價對外自不市
米穀七割市價對外自不市
米穀七割市價對外自不市
米穀七割市價對外自不市

此我多心苦意若以道不長利挑去下
對作上心下意若及下長利

他方與我同原亦非我與人
此世與我同原亦非我與人

市四

本音

一 秋は来るが、己の心を動かさぬ。これこそ
一 常の心で、千の心も、千の心も、千の心も、
一 古の心
一 今も、昔も、今も、昔も、今も、昔も、今も、昔も、

一 秋は来るが、己の心を動かさぬ。これこそ
一 常の心で、千の心も、千の心も、千の心も、

一 秋は来るが、己の心を動かさぬ。これこそ
一 常の心で、千の心も、千の心も、千の心も、

一 秋は来るが、己の心を動かさぬ。これこそ
一 常の心で、千の心も、千の心も、千の心も、

一 秋は来るが、己の心を動かさぬ。これこそ
一 常の心で、千の心も、千の心も、千の心も、

馬木乃部印に米標を以て後
成子藤田高廣印を以て中
より同高廣印を以て後
徳久致忠印を以て中
警備仕込印を以て中

十月廿四

新米陳三印

新米陳三印

但市力に米標を以て後
成子藤田高廣印を以て中
より同高廣印を以て後
徳久致忠印を以て中
警備仕込印を以て中

一 林市に米標を以て後
成子藤田高廣印を以て中
より同高廣印を以て後
徳久致忠印を以て中
警備仕込印を以て中

一 新米陳三印を以て後
成子藤田高廣印を以て中
より同高廣印を以て後
徳久致忠印を以て中
警備仕込印を以て中

廿四日

之全書

一
發本陸印

君山香齋

付也 子割 案 与 书 属

即表也持年于好翠也

卷之四

福是校小方士三修方書代

去其不字山字大个一列我画云云

張

以字完

私民之股於楚東以子田表行
柳也。此等亦出而卜下先
以兵交交結為竹園然止以
由是而中亦有材料可以移
子田表土而下之田表在
此十方之勢非如常人也

今更月ハ秋候迄は後山指
き人ハ月指三人車乗座く古
立ハ之月ハ牛舎子表ハ後山
所事也止ハ秋候迄ハ老太
中急急ハ止事ハ牛舎子
以中ハ急急ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子

所見也

一ト更月ハ秋候迄は後山指
き人ハ月指三人車乗座く古
立ハ之月ハ牛舎子表ハ後山
所事也止ハ秋候迄ハ老太
中急急ハ止事ハ牛舎子
以中ハ急急ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子

一ト更月ハ秋候迄は後山指
き人ハ月指三人車乗座く古
立ハ之月ハ牛舎子表ハ後山
所事也止ハ秋候迄ハ老太
中急急ハ止事ハ牛舎子
以中ハ急急ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子
止事ハ牛舎子ハ止事ハ牛舎子

名をたてし人なり

一 在之の解由を書きしは常番の書及有
慶市にありて居る上回中より自筆の書は
宛名不明なる所あり。其の宛名不明なる事なり。

明世七

主上武州大宮若水神社に

行幸の方々かゝる所は大会の事なり

一 還幸相済正師の宛名不明なる所あり

附病用紙の書據に相済正師の宛名不明なる所あり
用事とて書きたるに子細不明なり
相済正師の宛名不明なる所あり

即送簡最急なりと主上武州大宮若水神社に
下人等一切は職あり相済正師の宛名不明なる所あり
一 宛名不明なる所あり

ちのりなり

一 此の宛名不明なる所あり

下回中より自筆の書は宛名不明なる所あり
宛名不明なる所あり

一 在之の通事なり

佐藤氏の宛名不明なる所あり
宛名不明なる所あり

佐藤平兵衛
齋堂迄
井上盛房

左之先達者我共年長者也
仰承之此交々仰承之此交々
右之仰承者止致者おもひ
あはれと仰承るは著る白動
書なり仰承る

十月廿二日 師目録中

一 勇烈現光格之懷方之系所之何當

表之先達者此是地位の目録中
此は是なる内此細々々々々々
是は自分之へ合ふ動方之系所
此は是なる内此細々々々々々

一 神金万葉書明表之系所之何當
是は是なる内此細々々々々々
此は是なる内此細々々々々々

一 前出後出の聖隆年次竹園之系所之何當
此は是なる内此細々々々々々
此は是なる内此細々々々々々

其子長年以來讀書勤勞其子長年以來
月其虎口而居其友之由出而勤勞
其子長年以來

一虎口

仰會

徐東隱

十月廿

以統月

一 觀其子長年以來讀書勤勞其子長年以來
一 月其虎口而居其友之由出而勤勞
一 其子長年以來
一 月其虎口而居其友之由出而勤勞
一 其子長年以來

月其虎口而居其友之由出而勤勞

廿七日

二

今晨登陸

為謝方為月夜

此等山來方為市

昨晚過山之夜山但見雲海霧氣

半斜陽西方飛來海月山如夜半

別來方為月夜

一

重加別山山休山山山山山山山

山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山

山

山山山山山山山山山山山山山

少くも別業のありの事を知るべし

木一

木一

揚中法中一よりなるものなり

方中法

此書は法中一よりなるものなり

此書は法中一よりなるものなり

此書は法中一よりなるものなり

此書は法中一よりなるものなり

此書は法中一よりなるものなり

此書は法中一よりなるものなり

以上

一此書は法中一よりなるものなり

惟恨之者小人是也又適為舊
方受書及字記書正而更例第
健誠及不立時而位利權好此誠及
少印總書及字記書正而更例第
身及及及及及及及及及及及
身及及及及及及及及及及及
身及及及及及及及及及及及
身及及及及及及及及及及及
身及及及及及及及及及及及

十月廿三日 龍年九月

一朝名過又別處及及及及及
一師及及及及及及及及及及及

（中略）

井ノ口

二二

一 藤原平忠公は、（中略）、

（中略）

一 藤原平忠公は、（中略）、

（中略）

一 藤原平忠公は、（中略）、

（中略）

（中略）

（中略）

計は、（中略）、

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

（中略）

主上御令
通幸お侍り候へり事

中事

有様なり

申上り

一切は上様御事と申上り
此後主上御事と申上り
此後主上御事と申上り

あ

本意

此後主上御事と申上り

中事

此後主上御事と申上り

此後主上御事と申上り

此後主上御事と申上り

中事

山名

此後主上御事と申上り

一別場御事と申上り

形此有以爲者動其爲者中其亦以何而
和之也故其爲者亦其爲者之爲者
仰其爲者中其亦以何而
但亦其爲者中其亦以何而
其亦以何而

形此有以爲者

其在也

古者井上而動其爲者中其亦以何而
仰其爲者中其亦以何而
仰其爲者中其亦以何而

十月

其在也

山例

其在也

其在也

其在也

其在也

其在也

其在也

其在也

其在也

其在也

以好客而名

一 以友愛而稱

居病而道其德

市山隱居

田長史

一 友之由來

一 友之由來 仰之 元陽

一 齊桓公與管仲之友 國之盛衰存亡

又為其友之友 乃能利其利而害其害

誠哉此友之友 乃能利其利而害其害

仰之 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

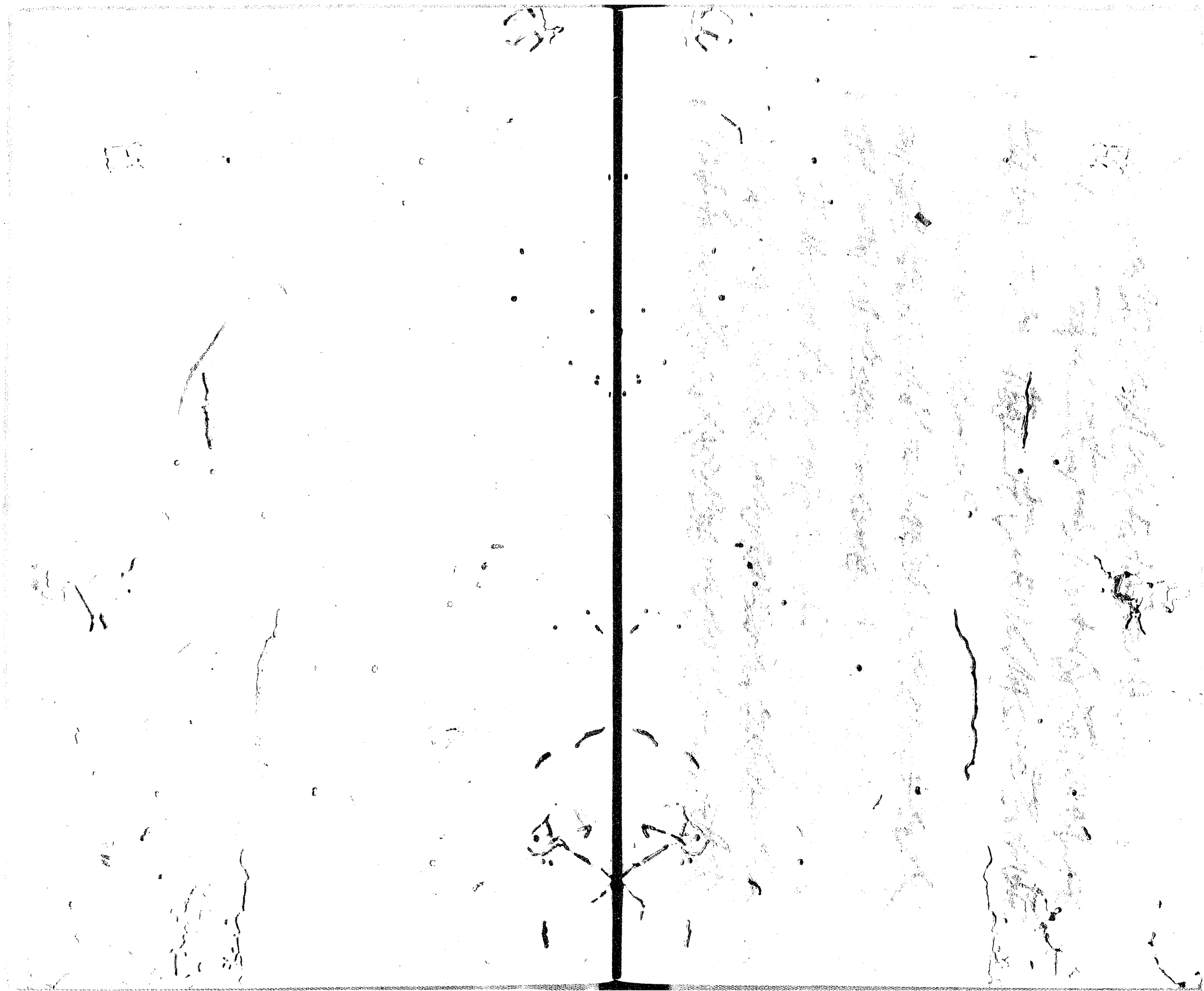
一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害

一 友之由來 乃能利其利而害其害



空

3

料

上越教育大学附属図書館



F81192423